

生活基盤施設耐震化等交付金 中間評価書（令和5年度 評価実施分）

1. 交付対象事業の進捗状況

水道施設等耐震化事業		計画期間：R2～R6					総事業費 (千円)	交付対象事業費 (千円)	交付額 (千円)	進捗状況	備考			
事業主体 (水道事業者)	事業箇所 (市町村)	事業内容		事業期間										
				R2	R3	R4	R5	R6						
舞鶴市水道事業	舞鶴市	計画	<舞鶴市水道管路緊急改善事業> 経年劣化した基幹管路（配水本管）2kmを更新。							373,662	373,662	124,554	完了	
		実績	上記事業について、計画区間の基幹管路（配水本管）の更新を実施した。							376,193	362,853	120,951		
相楽東部3町村 (笠置町、和東町、南山 城村)	笠置町	計画	紙ベースで整備していた相楽東部3町村水道施設台帳を共同で電子化を実施する。							7,150	5,826	1,942	完了	
		実績	上記事業について、計画していた補助対象部分の事業を実施し完了した。							3,206	2,976	992		
	和東町	計画	水道施設台帳の電子化がされていない相楽東部3町村（笠置町、和東町、南山城村）が共同で水道施設台帳を電子化。							8,470	8,002	2,667	完了	入札不調により予定していた事業量を年度内で完了することが困難となったため、1年延長となった
		実績	上記について、共同で水道施設台帳の電子化を実施した。							7,623	7,277	2,425		
	南山城村	計画	和東町・笠置町・南山城村の相楽東部3町村にて水道施設の管路情報等の電子化をおこなうもの。							7,810	7,344	2,448	完了	入札の不調により工期が遅れたため令和4年度にまたがって事業を行った。
		実績	上記事業について、水道施設台帳の電子化を実施した。							5,790	5,450	1,816		
与謝野町水道事業	与謝野町	計画	<与謝野町水道事業におけるIoT活用推進モデル事業> 水道施設台帳整備 水道施設・設備調査業務 1式 水道施設簡易台帳システム導入 1式							9,600	9,000	3,000	完了	
		実績	上記事業を計画どおり実施した。							9,095	9,000	3,000		

2. 事業効果の発現状況、評価指標の発現状況

I 事業効果の発現状況	【舞鶴市】計画に沿って、2kmの布設替えを実施し、耐震適合率52.6%となった。				
	【笠置町】計画に沿って、水道施設台帳の情報に関し電子化を実施し事業の目標を達成した。				
	【和東町】計画に沿って、相楽東部3町村が共同で水道施設台帳の電子化を実施し、和東町における電子化が完了した水道事業を1事業とする目標を達成。				
	【南山城村】計画に沿って、水道施設台帳の情報に関して電子化を行い整備した。				
	【与謝野町】計画に沿ってシステム整備を実施し、目標を達成した。				
II 評価指標の達成状況	指標	目標及び実績		達成評価(又は目標値と実績値に差が生じた原因)	
舞鶴市-1 基幹管路の耐震適合率 (耐震適合性のある基幹管路延長/基幹管路の総延長)	当初現況値	50.50%	(R2年度)	【R2年度当初】基幹管路総延長：97km、うち耐震適合管延長：49.0km 【R4年度末】基幹管路総延長：97km、うち耐震適合管延長：51.0km なお、目標値と実績値の差は、中区系（上安）工区において、国道バイパス工事と同時施工となることから、そのバイパス工事の遅延により目標を達成することが出来なかった。なお、その他の工区、与保呂系、榎1系（夕潮橋）、榎1系（大波街道）、中区系（魚屋）は計画通り完成した。	
	目標値	54.20%	(R4年度)		
	実績値	52.60%	(R4年度)		
笠置町 和東町 -1 水道施設台帳の電子化率 南山城村 (水道施設台帳の電子化が完了した水道事業の数/相楽東部3町村の水道事業の総数)	当初現況値	0%	(R3年度)	1年延長となったが、予定の値を達成。	
	目標値	100%	(R4年度)		
	実績値	100%	(R4年度)		
与謝野町-1 水道施設台帳システム整備率	当初現況値	0%	(R4年度)	予定の値を達成した	
	目標値	100%	(R4年度)		
	実績値	100%	(R4年度)		
III 評価指標以外の事業効果の発現状況 (必要に応じて記載)	【舞鶴市】-				
	【笠置町】水道施設台帳について電子化を行ったことにより、使用者の水道メーター設置場所や漏水等の不測の事態が起こってもすぐに管路情報がわかるようになった。				
	【和東町】情報の一元管理ができ、水道施設の維持管理、計画的な更新及び危機管理対策等において情報管理が効率的となった。				
	【南山城村】水道施設台帳について電子化を行ったことにより、漏水等の不測の事態が起こってもすぐに管路情報がわかるようになった。				
	【与謝野町】システム導入し水道施設台帳を整備したことにより、浄水施設、機械機器の設置状況、対応年数等を把握することができ耐震化並びに更新の判断材料とすることができるようになった。また、アセットマネジメント、耐震化計画などについても情報を活用し進めることができるようになった。				

3. 今後の方針等

【舞鶴市】引き続き、基幹管路（配水本管）の耐震化を進め、R9年度末には耐震適合率を57%となるよう、災害時にも被害を最小限とする強靱な水道施設の整備を進める。
【笠置町】整備した水道施設台帳を活用し、老朽化に伴う配水管の更新等を計画的に進め、随時水道施設台帳システムの更新を行っていく。
【和東町】整備した水道施設台帳を活用し、老朽化した配水管の更新等を計画的に進め、引き続き、飲料水の安定供給及び経営の合理化に努める。
【南山城村】水道管について老朽化に伴う布設替工事を行っているため、随時水道施設台帳システムの更新を行う。
【与謝野町】調査、整備を行った水道施設台帳システムを活用し、効率的に施設の耐震化並びに設備更新を計画的に進め、経営の効率化に努めます。